

第 44 回パプアニューギニア独立記念日の思い出

伊藤 明德 (ポートモレスビー支部 支部長)

9 月 16 日の PNG 独立記念日にワイガニの独立の丘で開催された独立記念日国旗掲揚式典に今年も参加してきました。今年、マラペ国会議員が首相として初めての式典でした。その様子を紹介します。会場には、朝暗い 5 時から PNG 政府・教会関係者、海外の外交官が来賓席に並び、国歌を演奏する警察音楽隊、学生、男女スカウトが式典の始まりを待っています。丘の周りにはぎっしりと PNG の人々が集まっています。式典の様子がテレビとラジオで放送されるため多くのメディアもいます。そんな中、マラペ首相はリッチェル夫人と一緒に黒のスーツに PNG デザインの手作りベストを着て入場して来ました。とても似合っています。大きな拍手と歓声が起きます。新首相に寄せる期待が感じられます。これまでの首相の挨拶は、PNG の経済発展の様子、国際行事の開催など政府の実績話でした。マラペ新首相は、それとは異なり PNG の抱える問題点を話し、それではダメだ、今後は人的・予算・地下資源のリソースの活用の向上させ PNG が政治的な独立のみならず経済的な独立を得るように、もっとリッチになるために PNG の州、部族が協力しましょう、我々はそれが出来るんだ、過去の反省と前向きな挨拶をしました。マラペ新首相は信心深いキリスト教徒です。彼らしく自分は買収されず自分の利益のために仕事はしない、この国に尽くすという強いメッセージも人々に伝えました。式典が終わると会場に人々が集まり、写真撮影をして独立記念日をお祝いしていました。私も多くの友人に



国旗掲揚の様子

会えるこの時がとても楽しみです。式典後は、独立記念の国家朝食会へ参加しました。妻のレジナは初めの参加で緊張していた様子でしたが、マヌス州のポマット国会議



中嶋大使と記念撮影

長が知り合いで、彼のスタッフはワントークです。彼らと冗談を話し雰囲気は馴染んだようでした。忙しく政府関係者と歓談されている中嶋日本大使にご挨拶をしました。大使は三回目の参加です。中嶋大使が笑顔で首相や政府関係者とお話され良好な関係を作って下さっていることがありがたく嬉しく思います。マラペ新首相に挨拶したいと思い近づいたら、マラペ新首相が笑顔で近づいて「久しぶりだな。」と握手してくれました。彼は 2008 年から 11 年まで教育大臣で会議で一緒したことが多くありましたが、覚えていてくれたことは光栄でした。日本政府による理数教科教科書の開発支援と良い成果がでていることを報告することができました。

午後から家族で新しくなったエラビーチに行き独立記念日を楽しんで来ました。凄い人出でシンシン会場まで行けません！どこもかしこも赤・黄色・黒の PNG カラー！笑顔・笑顔・笑顔！お祝いしている様子が伝わってきます。新首相と挨拶、家族と過ごす思い出に残る特別な日となりました。多くの課題を抱えている PNG です。その分新政府へはとも期待しています。笑顔溢れる国になりますように！私は協会支部長として少しでも PNG に貢献できるように活動して行きたいと思っています。ご支援宜しくお願い致します。ポートモレスビーより。



独立の丘 記念撮影の様子



マラペ新首相と記念撮影



新しくなったエラビーチでの式典の様子

第16回「Toktok 会」のご報告 講師：特定非営利活動法人 山本元帥景仰会 (2019年9月3日 於、霞山会館)

協会事務局

「山本五十六記念館開館20周年記念 パプア・ニューギニアに感謝する講話報告会」と題して、山本元帥景仰会で長年活動をされておられます片桐一夫氏、樋口栄治氏、瀧澤学氏の御三名の方々から、「翼が故郷に還るプロジェクト」を中心にお話いただきました。

山本元帥景仰会は1943年（昭和18年）、山本長官が戦死された年にその前身が発足し、人間山本五十六の思想と業績の情報発信そして故郷長岡の発展に寄与するという目的で様々な活動をされていますが、1984年（昭和59年）には、山本五十六元帥生誕100年の記念事業として、「長官機里帰りプロジェクト」が始まりました。以後8回にわたって現地パプアニューギニア・ブーゲンビル島を訪問され、当局と難しい交渉を繰り返して行われました。「風雨に曝されたままの機体は、このままでは朽ち果ててしまう」という関係者の危機感と熱意の結果、1989年（平成元年）遂に長官機の左翼を、故郷長岡市に帰還させることができたのです。その左翼がその後建設された山本五十六記念館に展示保管されています。

当プロジェクトでは、景仰会の皆さんの他に、当時在 PNG 大使でおられた野村忠策氏、橋廣治氏、PNG 政府公共事業省に勤務されていた原晃氏、JICA の PNG 所長でおられた平川氏、辻尚志氏もご尽力されました。

また山本五十六記念館のご紹介に続き、長岡空襲の犠牲者の慰霊を目的として始まった長岡まつりでの大花火大会（日本三大花火大会の一つ）や、時を経て姉妹都市になったホノルルのフェスティバルにおける真珠湾での長岡花火のご紹介もありました。

なお、長官機里帰りプロジェクトの様子は、「翼は還る」（山本五十六記念館編著。恒文社）として出版もされています。



片桐 一夫氏



樋口 栄治氏



瀧澤 学氏

講師 特定非営利活動法人 山本元帥景仰会（本会法人会員）

●片桐 一夫（かたぎり かずお）氏

元長岡技術科学大学 技官、前新潟県山岳会 副会長、
長岡地区保護司会 副会長

●樋口 栄治（ひぐち えいじ）氏

元長岡商工会議所 専務理事、
一般社団法人地域ルネサンス創造機構シンクタンク・
ザ・リバーバンク 執行理事

●瀧澤 学（たきざわ まなぶ）氏

長岡商工会議所 総務経理グループ 担当主幹、
NPO 法人山本元帥景仰会 事務局

第17回 Toktok 会開催のご報告 講師：大野政義氏 (2019年9月25日 於、霞山会館)

原 晃（当協会 理事）

今回のToktok会は、PNGとしては長期間続いた政権が、マラペ新政権に移行した直後に、PNGの現状を最もよく知る大野政義氏が、本協会の依頼に応え、実現した特別回であった。講演会が、3週間前に実施されたばかりであったにも関わらず、参加者39名と大盛況であった。

大野氏は、1984年に青年協力隊員として初めてPNGに赴任、それ以来、色々な形でPNG政府中枢に於いて活躍した。歴代駐日PNG大使、及び駐PNG日本大使にも信頼される、両国関係にとって希有な存在である。

同氏は、PNGでの国際協力経験後、名古屋大学で修士号を取得、その後PNG、南太平洋、アジア、アフリカ等でJICA専門家として大活躍、PNGに戻った。

JICA専門家の立場は、外部の人には分かり難い点がある。それは雇用形態である。雇用主は、JICAであり、実際に活動する赴任国にはない。JICAは、赴任国の要請に則して候補者を選任し、雇用主として派遣する。変則なのは、例えば、専門家が相手国に不利益な結果を与えても、責任を問われない事である。悪意を持って行なわれた結果以外は、責任を免れるというのが赴任国とJICAの合意済みの派遣条件である。

従って、予算、人事等の権限を持たず、赴任国の人事院の公務員としての責任も権限をも持たない。筆者は、大野氏の赴任した84

年まで、10年余、PNG政府と個人的契約の外国人公務員であった。責任も権限も持てないという不思議な立場のJICA専門家の難しさは、双方の立場に立った経験を持つ筆者には、よくわかる。JICA専門家は、権限でなく相手が真に理解しないとアドバイスが実行されない。言葉が全てではないが、彼の英語力国連英検特Aは+である。

講演は、本稿では充分説明し切れない。幸い彼の好意でパワーポイント要旨として資料が、協会に残った。希望者は資料を取り寄せて欲しい。大野氏が発表の端々に、自分を抑えた発言は、彼の置かれた微妙な上記事情による。

彼の今後の活躍を祈り、更に、当協会への格別な好意に感謝したい。



中嶋 敏 (駐パプアニューギニア特命全権大使)

【海上自衛隊艦船の寄港】

8月3日～5日、海上自衛隊のヘリ搭載大型護衛艦「いせ」と輸送艦「くにさき」がポートモレスビーに寄港しました。寄港中、歓迎式を始めとして、エラビーチにあるパプアニューギニア人戦争犠牲者慰霊碑への献花、PNG 国防軍とのスポーツ交流、一般公開、艦上レセプションなどが行われました。続いて9月26日～29日には練習艦「かしま」と随伴護衛艦「いなづま」がラバウルに寄港しました。



輸送艦「くにさき」を見学したポートモレスビーの小学生

ラバウルでも多くの地元住民が参加した歓迎式が行われた他、南太平洋戦没者の碑、モンテビデオ丸犠牲者の碑及びビタパカ連合軍戦没者墓地への献花、ボランティア活動、地元青年とのスポーツ交流、一般公開、艦上レセプションなどが行われました。この2つの寄港を通じて日本と PNG の友好親善が一層深められました。



南太平洋戦没者の碑での慰霊式典

【ニューアイルランド州訪問】

9月12日～15日、ニューアイルランド州ケビエンを訪問し、1974年に無償援助(6.6億円)で建設された国立漁業訓練大学校、草の根支援でテレビ、ビデオ等の遠隔教育機材を供与した

エリ・マネラ小学校、JICA 青年海外協力隊員が活動している病院等を視察しました。PNG 独立以来2度首相を務めたジュリアス・チャン州知事から温かい歓迎を受け、州政府迎賓館で同州の経済開発状況に関するブ



ケビエンの州政府迎賓館で大使を歓待するジュリアス・チャン知事

【エンガ州訪問】

10月10日～12日、エンガ州の州都ワバグとワペナマンダを訪問しました。10日、ワバグで草の根支援による救急車6台の州保険局への引渡式に出席しました。11日には JICA の支援で日本の NGO「ハンズ」が行っている村落保健ボランティア養成コースの卒業式に出席。12日にはワペナマンダで草の根支援により完成したタレ橋の開通式とトバック橋の起工式に出席しました。この2つの橋と2016年に完成したティミン橋により人と車の往来が可能となり、また、同地区にも配備される救急車によって人々の暮らしが大きく改善されます。式典には地元選出のパト前外相に加え、住民数百名が参加し、会場は日本への感謝の声と喜びに包まれました。



タレ橋の開通式に集まった地元住民

駐日 PNG 大使館情報

即位礼正殿の儀

2019年10月22日、雨の降りしきる中、厳かに即位礼正殿の儀が執り行われました。

パプアニューギニアからは、総督 (Governor General) である、H.E. Grand Chief, Sir Bob Bofeng Dadae が参列のため、10月21日に先遣隊を含む9人のスタッフと共に来日されました。



今回は2017年2月に総督に任命されてからは初の来日となります。

到着後の午後にはご一行様で大使館を訪問され、大使館の見学と正殿の儀に関するブリーフィングを行いました。22日当日の正殿の儀には、Dadae 総督と、ヤボン臨時代理大使が出席され、日本の荘厳で伝統豊かな儀式に、総督も大変感銘をされていたとのことです。その夜は、皇居にて、お祝いの饗宴の儀が行われ、Dadae 総督も遅くまでお祝いのお席を楽しまれました。

23日は、太平洋諸島 Parliamentary League による、ランチが催され、太平洋諸島の各国のVIPの方々と懇親されました。

夜は安倍首相主催による、晩餐会がニューオータニにて開かれました。そちらでは、狂言や歌舞伎、文楽人形などが披露され、Dadae 総督も日本の伝統芸能を各国のVIPと共に堪能されたとのことです。24日には、短い滞在を終えられ、来年も是非日本を訪問したいとの強い意向を示され、日本滞在を惜しまれながら帰途へとつかれました。



日本・パプアニューギニア協会の皆様、こんにちは。阿含宗と申します。

私どもは、仏教の開祖である釈尊の教法を伝える唯一の経典「阿含經」を依經として奉持する仏教教団で、桐山靖雄大僧正により1978年に創設されました。阿含宗の名称はこの「阿含經」に由来し、本山は京都にあります。

今から10年前、2009年10月、協会の皆様よりご支援をいただき、ソロモン諸島国ガダルカナル島と、パプア・ニューギニア国 東セピック州ウエワクにおいて、戦没者を御供養する大柴燈護摩供を奉修させていただくことができました。以後も国内外において、戦没者供養と世界平和を祈願する護摩法要を継続開催しております。

- 2012年には硫黄島・フィリピン・東シナ海における洋上法要
- 2014年にはサイパン島・テニアン島におけるマリアナ諸島戦没者供養護摩法要
- 2017年にはロシアのサハリンにおける護摩法要と、樺太・千島・北太平洋戦没者供養の北方洋上法要

そして昨年は、日本の帰還兵たちが「ジャワの極楽、ビルマの地獄、死んでも帰れぬニューギニア」と評したという、ニューギニアとならぶ激戦地ミャンマーにおいて、インパール作戦を含むビルマ戦線の戦没者を御供養する護摩法要を開催いたしました。

今回の法要には、公益財団法人太平洋戦争戦没者慰霊協会様のご協力のもと、靖國神社様ならびに栃木縣護國神様に御神事をおつとめいただきました。また、現地との交渉や旅行手配においては、協会の島田事務局長様、および株式会社ワールドビジネスコミュニケーションズ様にはたいへんお世話になりました。

平成28年8月に桐山靖雄大僧正は遷化いたしました。昭和52年のパラオ諸島から始まった戦地巡礼の旅は、今後も開祖の遺志を受け継いで続けてまいる所存です。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、毎年2月11日（祝）に京都市山科区北花山大峰の阿含宗境内地において奉修しております「炎の祭典・阿含の星まつり神仏両界大柴燈護摩供」は、来年度より日曜日の開催となり、2月9日（日）を予定しております。京都の冬の風物詩として親しまれておりますので、ぜひ御参拝ください。



イラワジ川船上法要



サガインヒル日本人バゴダ礼拝堂での法要



バガンにおける柴燈護摩法要



政府建立慰霊碑での法要（ヤンゴン）

事務局からのお知らせ

年内最後のぐくらくちょうを御届いたしました。発行が遅れましたことお詫び申し上げます。

既報の通り当協会の西山肇理事が瑞宝

中綬章を受章されました。おめでとうございます。また、第16回TOKTOK会で講師をお務めいただきました山本元帥景仰会の片桐一夫氏が藍綬褒章を受章されました。おめでとうございます。

10月30日開催の堀江正夫名誉顧問によりTOKTOK会は満員のご参加者

により盛会にて開催されました。

次号の紙面にて講演の詳細をご案内させていただきます。

次のごくらくちょうは年明け1月末の発行となります。もうすぐ師走となりますが、皆さま良いお年をお迎えください。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：29社 ◆ 個人会員：128名（2019年11月11日現在）

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会事務局

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン株式会社内
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員6,000円 法人会員60,000円 学生1,000円 PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ